

東京都青梅市における アオバズク *Ninox scutulata* の生息及び繁殖状況

山口孝

青梅自然誌研究グループ 〒198-0063 東京都青梅市梅郷 5-974-3

はじめに

アオバズク *Ninox scutulata* は、他の夏鳥と同様に全国的な個体数の減少が認められており (Higuchi & Morishita 1999), 東京都レッドリストでも絶滅危惧種として掲載されている (東京都環境局 2010). 個体数が減少した原因としては、巣となる樹洞を持つ大径木の伐採や餌の昆虫類の減少 (東京都公害局 1974), 越冬地である東南アジアの熱帯雨林の減少 (Higuchi & Morishita 1999) 等が挙げられている. しかしながら、本種は夜行性なこともあり、その生息状況を把握するための野外調査は、全国的にも静岡市など (日本野鳥の会静岡支部 1982), ごく一部の地域でしか行われていない.

筆者は、東京都青梅市において、アオバズクの生息・繁殖状況の実態を把握するため、2007年から2010年にかけて野外調査を実施したので、その結果をここに報告する. なお、これらの一部については、先に山口 (2009) で報告しており、本報告はその後の観察結果を加味したものである.

本種はバードウォッチャーや野鳥カメラマンに非常に人気があり、生息地が特定されれば本種の繁殖に影響が及ぶ恐れがあるため (金子 1996), 本報告では、地名等の

詳細な情報の記載を控えた.

方法

1. 調査地

調査地の青梅市は東京都の北西部に位置している (図 1). 市の面積は約 103km² で、多摩川が中央部を西から東へと貫いている. 市域の東部は関東平野の西縁にあたり、都心のベッドタウンとして市街地化されている一方、西部は関東山地の東縁を成す山間地である. 都心近くで自然に親しめる行楽地として、ハイキング等に訪れる人も多い.

2. 調査方法

調査は主に夜間に行い、渡来初期の4月から5月にかけては、アオバズクの鳴き声を頼りに生息地の発見に努めた. この際、調査が本種の繁殖に及ぼす影響を最小限に留めるため、プレイバックは実施しなかった. 生息地の発見後、雛が巣立つ8月初めまでの間に餌運搬を観察することにより、営巣林及び営巣木を特定し、繁殖状況の確認を行った. 観察は目視、あるいは倍率10倍の双眼鏡を用いて行った.

観察時間は、2007年は延べ30日間で計670分 (平均22分/日)、2008年は延べ90日間で計3625分 (平均40分/日)、

2010年10月8日受理

キーワード: アオバズク, 東京都, 青梅市, 生息数, 繁殖成功率



図1. 調査地

2009年は延べ58日で計1849分(平均32分/日)、2010年は延べ79日で計2843分(平均36分/日)となっている。

なお、営巣地付近で観察を行う際には、アオバズクに出来る限りストレスを与えないように最大限の注意を払った。基本的に営巣林の外部から観察することとし、かつ、1ヶ所当たりの観察時間を最大で30分程度とした。営巣木特定の際など、必要に応じて営巣林内での観察も行なったが、その場合は観察時間を5分程度に収めた。

結果及び考察

1. 生息状況

つがい生息の判断は、成鳥2羽の間で求愛給餌、交尾等の繁殖行動が確認された場合に行った。また、アオバズクは雌雄の外観の差が明瞭ではないが、一夫一妻でテリトリーを確立するので(Oba 1996)、成鳥2羽で並んでとまったり、共に採餌活動を行ったりする行動が観察された場合もつがいであると判断した。

本調査の結果、表1のとおり、2007年から2010年の4年間で12つがい(生息地AからL)の生息を確認した。実際には調査漏れのつがいが生息している可能性もあり、この結果は青梅市内に生息する最小限のつがい数である。表1のほか、単独個体のみ観察された生息地が2007年に1ヶ所、2008年に1ヶ所、2009年に3ヶ所、2010年に3ヶ所確認された。

表1. 青梅市内におけるアオバズクの生息及び繁殖状況

生息地	環境	営巣木	2007年		2008年		2009年		2010年	
			繁殖	巣立ち雛数	繁殖	巣立ち雛数	繁殖	巣立ち雛数	繁殖	巣立ち雛数
A	河畔林	ケヤキ	?	?	×	0	○	2以上	○	2以上
B	河畔林	ケヤキ	○	1以上	○	2	○	2以上	○	2以上
C	河畔林	ヤマザクラ	?	?	×	0	○	3以上	○	3
D	?						?	?		
E	河畔林	シラカシ			○	2	○	3以上	○	3以上
F	河畔林		?	?	×	0	×	0	×	0
G	河畔林	ケヤキ			×	0	○	3以上	○	2以上
H	社寺林						×	0		
I	社寺林	スギ	○	2以上	○	3	○	2以上	○	2以上
J	社寺林				×	0	×	0		
K	社寺林	トチノキ	○	2以上	○	3	○	2以上	○	2
L	社寺林		?	?	×	0	×	0		

空欄：未調査 ○：繁殖成功(巣立ち雛を確認) ×：繁殖失敗 ?：つがいの生息を確認したが不明

■：渡来せず

■：単独個体のみ渡来

生息地の環境としては、河畔林または社寺林で、その内訳はほぼ半々であった。河畔林は河岸段丘の崖線に発達し、地形的な制約、あるいは景観保全のためケヤキ *Zelkova serrata* (Thunb.) Makino やシラカシ *Quercus myrsinifoli* Blume 等の大径木が多く残っている。社寺林も、その宗教的な意味合いから古くより大切に保存され、スギ *Cryptomeria japonica* (L.f.) D. Don 等の大径木が多く見られる。これらの大径木は、アオバズクが巣として利用可能な大きさの樹洞を持つことがある。また、まとまった緑地となる河畔林や社寺林は、餌となる昆虫類などの生息の場でもある。日本野鳥の会静岡支部（1982）では、餌場の存在と樹洞の有無という観点から、山林に近接した社寺林がアオバズクの生息の場として最も適しているとしたが、本調査地では、社寺林と同様に河畔林もアオバズクの重要な生息環境となっていた。

2. 繁殖状況

繁殖の成否に関し、巣立ち雛の姿を確認した場合、あるいは特徴的である巣立ち雛の声を確認した場合は、繁殖に成功したものと判断した。一方、生息地で巣立ち雛が確認されず、餌運搬等の繁殖をうかがわせる行動も全く観察されない場合は、繁殖に失敗したと判断した。

繁殖の成否については、表1の繁殖の欄に示した。毎年繁殖に成功している生息地がある一方、生息地JやLのように繁殖失敗が続いた生息地では、つがい、あるいは単独個体さえも渡来しなくなるケースがみ

られた。

営巣木については、ケヤキ、ヤマザクラ *Prunus jamasakura* (Siebold ex Koidz.) H. Ohba, シラカシ, スギ, トチノキ *Aesculus turbinata* Blume と多種にわたり、樹高は17m～30m、胸高直径は55cm～145cmの範囲内の大径木であった。基本的に、一つの生息地では毎年同じ巣を使用していたが、生息地Bでは営巣木の位置が毎年100m～200m程度移動した（樹種はいずれもケヤキ）。

巣立ち雛数については、1ヶ所当たりの調査時間を短く抑えているため、正確に把握出来なかったケースが多いが、2～3羽であることが多いようである。

今回の調査で得られた各年の繁殖成功率（つがい数に対する繁殖成功つがい数）は、表2のとおりとなった。なお、2007年については、繁殖活動が順調に進んでいると思われたつがいを中心に観察を行ったため、繁殖成功率の算出対象からは除外した。繁殖成功率は40%～88%となり、年による変動が大きいという結果が得られた。ただし、2010年の88%という高い数値は、繁殖失敗が続いていた生息地からつがいが消失したことも寄与している。2008年から2010年の3年間の平均繁殖成功率は62%であっ

表2. 青梅市内におけるアオバズクの繁殖成功率

年	生息確認 つがい数 (a)	繁殖成功 つがい数 (b)	繁殖成功率 (b/a)
2008	10	4	40%
2009	11	7	64%
2010	8	7	88%
計	29	18	62%

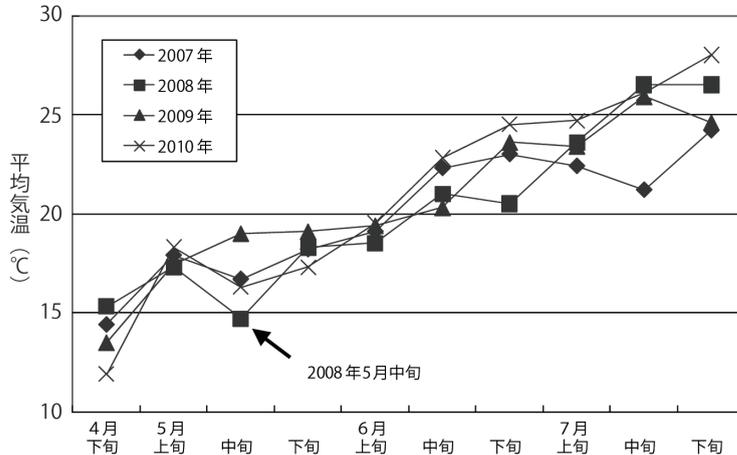


図2. 青梅の平均気温の推移. 気象庁ホームページで公開されている「気象統計情報」を基に作図.

た.

3. 繁殖失敗の原因

繁殖失敗の原因が特定された例はなかったが、生息地J及びLでは、アオバズクが巣として利用すると予想された樹洞をムササビ *Petaurista leucogenys* が藪として利用しているのが観察された。特に2008年の生息地Jでは、6月中旬から7月上旬にかけて、ムササビが入っている樹洞の前でホバリングするアオバズクの姿が観察され、樹洞をめぐる種間の競争、つまりは樹洞を持つ大径木の減少が繁殖を妨げる一因となっていることが推測された。

また、表2において、2008年の繁殖成功率の低さが目立つが、この原因も不明であった。ただし、一つの可能性として、アオバズクが渡来して間もない5月頃の餌不足が考えられる。この年は、特に5月中旬の気温が低く(図2)、昆虫類の活動が低下

したのか、街灯に集まる昆虫類が非常に少ない状況であった。通常では薄明薄暮時を中心に採餌活動を行うアオバズクが、この時期、深夜にも採餌する姿が度々観察されている。5月中旬は、求愛給餌や交尾が多く観察される時期でもあり、この時期に十分に餌が採れなかったとすれば、繁殖に影響した可能性はある。

なお、本調査の期間中、アオバズクの観察者に対する威嚇等の行動は見られなかった。また、他のバードウォッチャーや野鳥カメラマンの姿を見かけたこともなく、人間による本種の繁殖への直接的な影響は認められなかった。

謝辞

今回の調査を行うにあたり、青梅自然誌研究グループの荒井悦子氏、御手洗望氏、御手洗文代氏、三好ゆき江氏には、アオバズクの生息情報を提供していただいた。ここに深く謝意を表す。

引用文献

- Higuchi, H. & Morishita, E. 1999. Population declines of tropical migratory birds in Japan. *Actina* 12:51-59.
- 金子紀子. 1996. アオバズクの繁殖に影響する人間の行動. *BINOS* 3: 9-15.
- 日本野鳥の会静岡支部. 1982. 静岡市におけるアオバズクの分布と生息環境. *Strix* 1: 93-102.
- Oba, T. 1996. Vocal repertoire of the Japanese Brown Hawk Owl *Ninox scutulata japonica* with notes on its natural history. *NHR, Special Issue* 2: 1-64.
- 東京都環境局. 2010. 東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト～2010年版. 東京都環境局自然環境部, 東京.
- 東京都公害局. 1974. アオバズク—東京におけるアオバズクの生息地の衰退—. 自然環境保全に関する基礎調査報告書〔Ⅲ-B〕: 51-74. 東京都公害局自然環境保護部, 東京.
- 山口孝. 2009. 青梅市におけるアオバズク *Ninox scutulata* の生息及び繁殖状況. 青梅自然誌研究グループ会報. 4: 1-5.

Breeding status of the Brown Hawk Owl *Ninox scutulata* in Ome, Tokyo

Takashi Yamaguchi

The Study Group of Natural History in Ome City. 5-974-3, Baigo, Ome, Tokyo 198-0063 Japan